

南九州大学 人間発達学部子ども教育学科 令和8年度入学試験「出題の意図」

試験区分	出題意図
総合型Ⅰ期	この問題は、地域の歴史や伝統を大切にしながら、地域への愛着を育むことを目的としています。また、異なる世代との交流を通してコミュニケーション能力や協働性を養い、子どもや若者が主体的に地域文化に関わることで、自らの役割やアイデンティティ形成につなげることも狙いです。教育・保育の視点を取り入れ、学習活動の中で地域文化を体験させる点も重視しています。
総合型Ⅱ期	デジタル教科書には、学びを支援する多くの利点がある一方で、健康面や学習環境、指導方法などの課題も存在している。受験生に対して、まず公的資料などを調べてメリットとデメリットを整理する力をみるとともに、その上で自身の経験を踏まえ、教育現場での効果や課題、必要な指導や配慮について自分の考えを論理的に表現できるかをみる。
総合型Ⅲ期	実施せず
総合型Ⅳ期	現在、保育・教育現場においては、子ども・児童だけではなく、保護者やその家庭への支援も求められている。子どもを取り巻く社会的環境や育児環境の変化、保護者が抱えている不安（育児不安）や孤立化について取り上げ、保護者との信頼関係の構築、情報提供や地域との連携など保育者・教育者に求められる役割、具体的な支援方法などについて、自分自身のことと捉え、考えていくことは、今後の学修において役立つと考える。
総合型Ⅴ期	（１）辞書や書籍を用いて、馴染みのない言葉を調べる力、また、それらの内容をまとめる力を測ることを目的とする。 （２）辞書や書籍を用いて調べた内容を、入学を希望する学部の主要なテーマである保育や教育の実践に結び付けて考えることができる力、また、考えを言語化する力があるかどうかを測ることを目的とする。
学校推薦型Ⅰ期	この問題は、経済格差が招く多角的な社会課題に対する深い洞察力と論理的思考力を問うことを意図している。 具体的には、特定の問題を選択・分析させることで「課題発見能力」をはかり、その対策を考えさせることで「問題解決能力」を評価する。さらに、「大学生としての取り組み」を記述させることで、社会問題を自分事として捉える当事者意識や、主体的・具体的に行動する意欲を測るねらいがある。
学校推薦型Ⅱ期	現代社会の課題を批判的に考察する力を問う。具体的には、以下の３つの能力を評価する。 ①「論理的思考力と構成力」 SNSと読解力の関係を多角的に捉え、自身の定義に基づき、筋道を立てて文章を組み立てる力。 ②「具体性と説得力」 抽象的な議論に終始せず、自身の経験や観察に基づいた具体的な事例を提示することで、主張に説得力を持たせる力。 ③「表現力」 自身の考えを簡潔かつ明確に、論理的破綻なく記述する力。
社会人Ⅰ・Ⅱ期	実施せず
帰国生徒Ⅰ・Ⅱ期	実施せず
編入	実施せず